



2015年 3月期 決算説明会

2015年5月13日

石油資源開発株式会社

注意事項

本資料に掲載されている当社の現在の計画、見通し、戦略、その他歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しを示したものです。実際の業績は、さまざまな要素により、これら業績見通しとは大きく異なる結果となり得ることをご承知おき下さい。

本資料は投資勧誘を目的としたものではありません。

Copyright: 本資料に含まれるすべての内容に関する著作権は、当社が有しています。
事前の承諾なく、これらの内容を複製もしくは転載することはお控えください。

注: 本資料において **1H,2H** はそれぞれ上期、下期を、
(a) は実績数値を、**(e)** は予想数値を示しています。

本資料に関するお問い合わせ、その他IRに関するご質問は、以下にお願いいたします。

石油資源開発株式会社 広報IR部 IRグループ 電話 **03-6268-7111**

説明会の内容

1. 業績ハイライト

代表取締役社長 渡辺 修

2. 2015年3月期 決算の概要

執行役員 山下 通郎

3. 2016年3月期 通期業績予想の概要

執行役員 山下 通郎

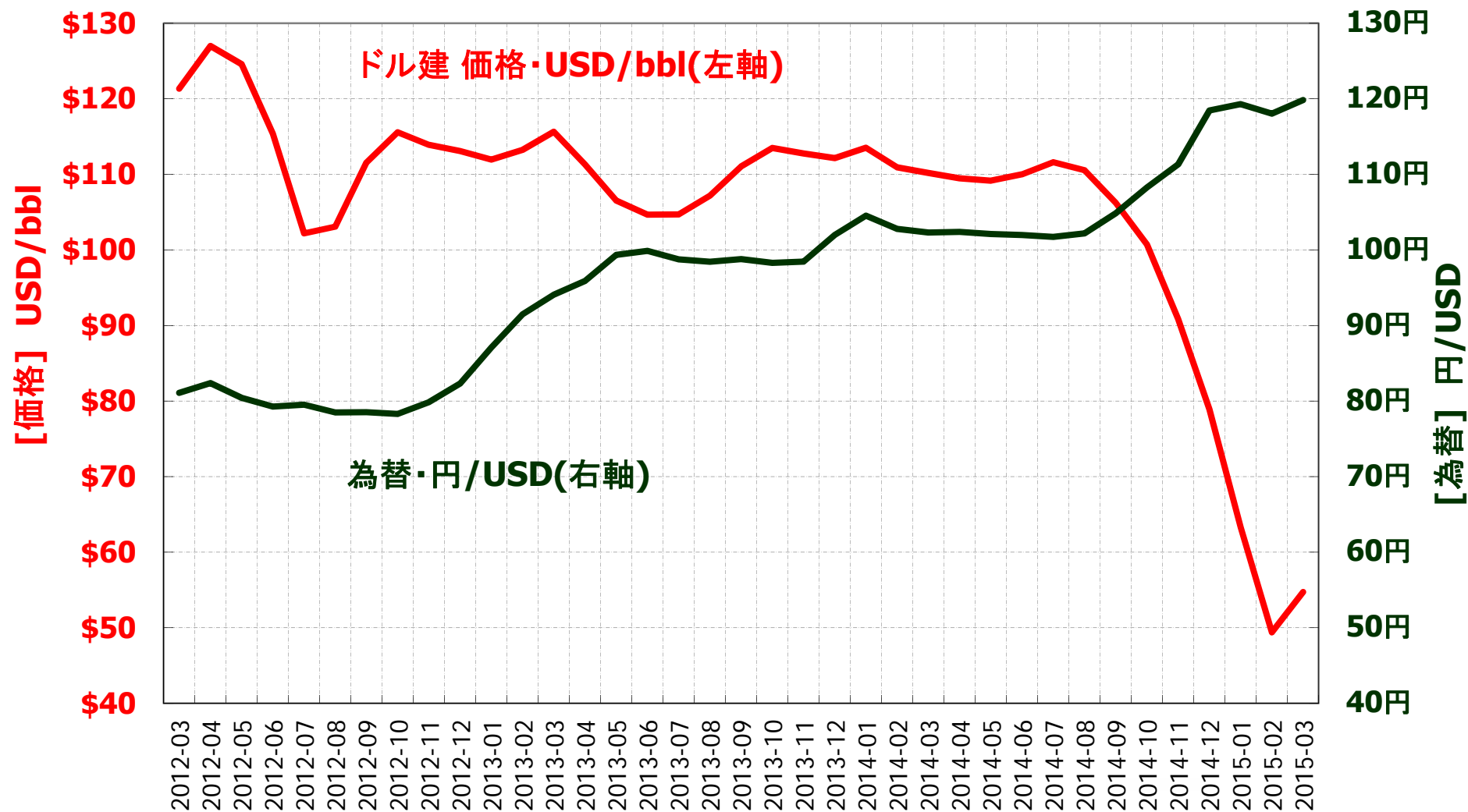
4. 長期ビジョンと新中期事業計画の概要

代表取締役社長 渡辺 修

1. 業績ハイライト

代表取締役社長
渡辺 修

原油価格と為替の動き



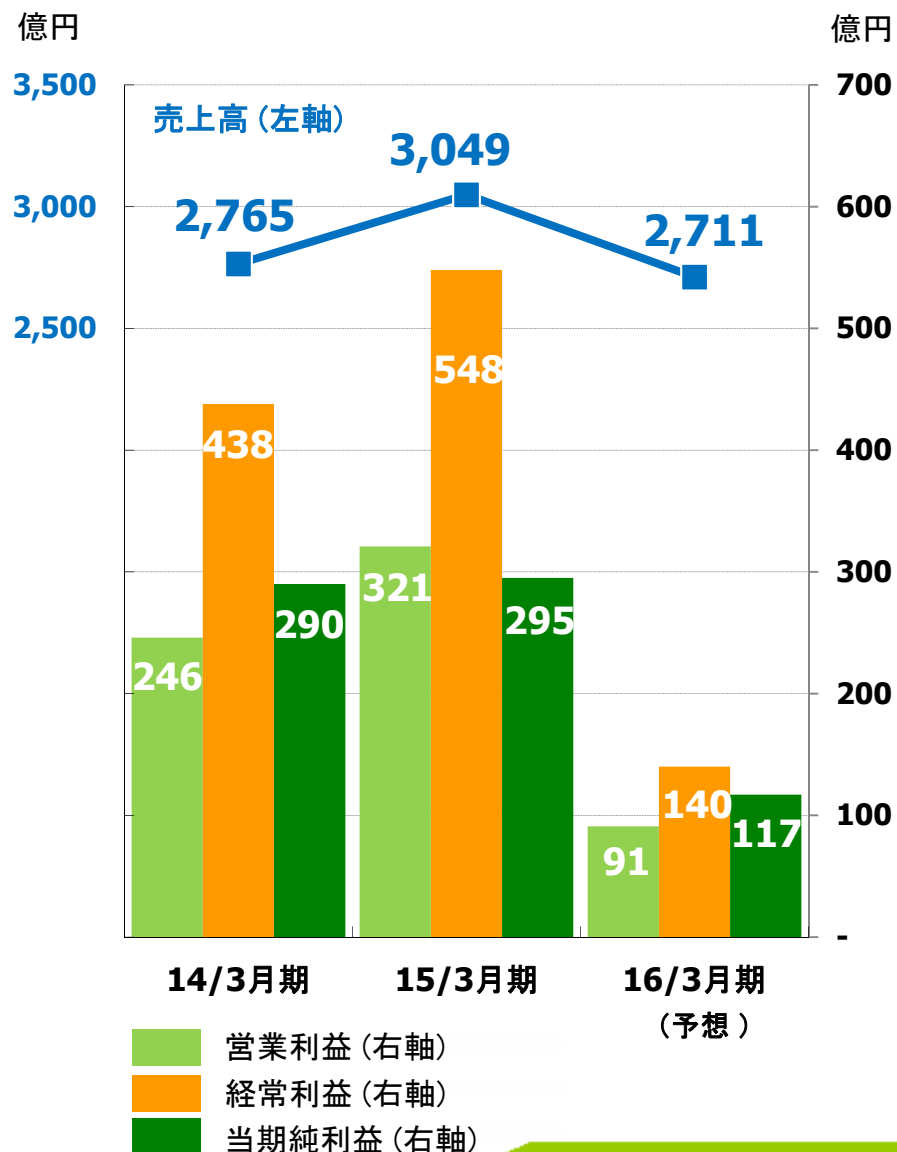
15/3月期決算、16/3月期予想【ハイライト】

■ 15/3月期実績（14/3月期実績比）

[億円]	14/3月期 実績 (a)	15/3月期 実績 (a)	比較増減	
売上高	2,765	3,049	+283	+10%
営業利益	246	321	+75	+31%
経常利益	438	548	+109	+25%
当期純利益	290	295	+5	+2%
油価 (\$/bbl)	110.51	96.48	▲14.03	▲13%
為替 (¥/\$)	99.31	106.23	+6.92	+7%

■ 16/3月期予想（15/3月期実績比）

[億円]	15/3月期 実績 (a)	16/3月期 予想 (e)	比較増減	
売上高	3,049	2,711	▲337	▲11%
営業利益	321	91	▲230	▲72%
経常利益	548	140	▲408	▲74%
当期純利益	295	117	▲178	▲60%
油価 (\$/bbl)	96.48	60.00	▲36.48	▲37%
為替 (¥/\$)	106.23	115.00	+8.77	+8%



2. 2015年3月期 決算概要

執行役員 山下 通郎

15/3月期 決算概要【ポイント】

[百万円]	14/3月期 通期 実績 (a)	15/3月期 通期		実績 (a)
		当初予想 5.12公表 (e)	修正予想 11.7公表 (e)	
売上高	276,588	323,633	324,378	304,911
営業利益	24,634	33,077	34,681	32,146
経常利益	43,889	41,469	48,819	54,839
当期純利益	29,015	27,379	35,374	29,567

[油価と為替の前提]

原油CIF価格 (USD/bbl)	110.51	100.00	101.27	96.48
為替/米ドル (Yen/USD)	99.31	100.00	103.43	106.23
ビチューメン価格 (CAD/bbl)	51.67	54.15	58.16	55.74
為替/カナダドル (Yen/CAD)	98.42	95.00	95.00	103.63

◆ 15/3月期 当初予想 (5.12公表) → 修正予想 (11.7公表)

- 【+】天然ガス販売量の増加、持分法投資利益の増加 等
- 【-】原油販売量の減少 等

◆ 15/3月期 修正予想 (11.7公表) → 決算値(5.12短信)

- 【+】為替差益の増加、持分法投資利益の増加 等
- 【-】原油販売量の減少、販売価格の下落、減損損失の計上 等

15/3月期 決算概要 【従来予想(11.7)比】

単位：百万円	従来予想 2014/11/7	実績 2015/5/12	比較増減
売上高	324,378	304,911	▲19,467
売上総利益	72,981	70,262	▲2,719
探鉱費	4,712	4,489	▲223
販売管費	33,588	33,625	+37
営業利益	34,681	32,146	▲2,535
営業外損益	14,138	22,692	+8,554
経常利益	48,819	54,839	+6,020
特別損益	▲10	▲4,465	▲4,455
法人税等	11,000	17,644	+6,644
少数株主利益	2,436	3,161	+725
当期純利益	35,374	29,567	▲5,807

「増益要因を +」、「減益要因を ▲」で記載

売上総利益
国内原油天然ガス ▲20億円

営業外損益
持分法投資利益 +25億円
為替差益 +60億円

特別損益
海外プロジェクトの減損計上 ▲39億円

法人税等
特損への税効果不適用 ▲16億円
税制改正に伴う繰延税金負債 ▲18億円
その他繰延税金資産等見直し ▲32億円

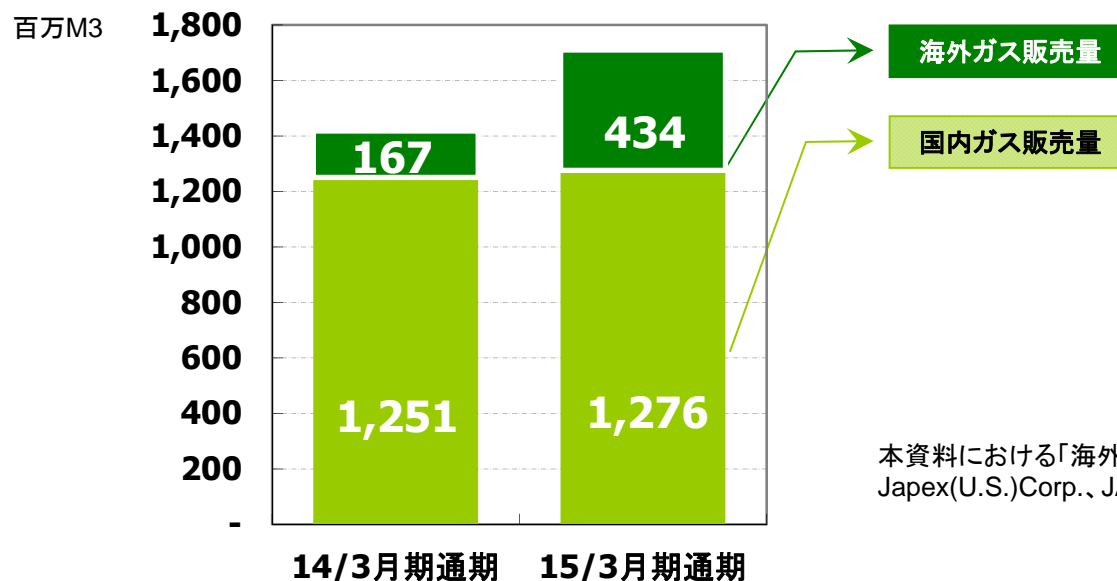
		1Q	2Q	3Q	4Q	1Q-4Q
原油CIF USD/bbl	従来予想	109.51	110.70	100.00(e)	85.00(e)	101.27(e)
	実績			99.69 (a)	64.58(a)	96.48(a)
為替 円/USD	従来予想	102.27	101.96	105.00(e)	105.00(e)	103.43(e)
	実績			107.77(a)	118.69(a)	106.23(a)

15/3月期 天然ガス 販売状況【前期比】

販売量: 百万M3 売上高: 百万円		14/3月期		15/3月期		比較増減	
		4-9月 2Q累計 (a)	4-3月 通期 (a)	4-9月 2Q累計 (a)	4-3月 通期 (a)	4-9月 2Q累計	4-3月 通期
天然ガス:	販売量	614	1,418	775	1,710	+160	+291
	売上高	31,883	71,584	37,458	83,974	+5,575	+12,390

販売量 内訳

国内ガス販売	販売量	577	1,251	578	1,276	+1	+25
(うち国産天然ガス)	販売量	(408)	(853)	(382)	(813)	(▲26)	(▲39)
海外ガス販売	販売量	37	167	196	434	+158	+266



本資料における「海外ガス」の販売量は、海外連結子会社である Japex(U.S.)Corp.、JAPEX Montney Ltd.の数値を記載しています。

15/3月期 原油 販売状況【前期比】

		14/3月期		15/3月期		比較増減	
		4-9月 2Q累計 (a)	4-3月 通期 (a)	4-9月 2Q累計 (a)	4-3月 通期 (a)	4-9月 2Q累計	4-3月 通期
原油:	販売量(千KL)	877	1,902	1,107	2,396	+229	+494
	売上高(百万円)	53,919	119,370	73,500	133,346	+19,581	+13,975

【権益原油の内訳】

国産原油	販売量(千KL)	188	390	190	367	+1	▲22
	売上高(百万円)	12,828	27,391	13,768	23,857	+940	▲3,534
海外原油	販売量(千KL)	8	280	273	830	+264	+549
	売上高(百万円)	478	18,070	18,568	43,466	+18,089	+25,395
ビチューメン	販売量(千KL)	165	342	152	332	▲12	▲10
	売上高(百万円)	5,110	10,962	5,382	12,105	+271	+1,143

【油価と為替の前提】

原油CIF価格	(USD/bbl)	108.53	110.51	110.06	96.48	+1.53	▲14.03
為替/米ドル	(Yen/USD)	97.58	99.31	102.13	106.23	+4.55	+6.92
ビチューメン価格	(CAD/bbl)	52.22	51.67	58.93	55.74	+6.71	+4.07
為替/カナダドル	(Yen/CAD)	94.01	98.42	95.04	103.63	+1.03	+5.21

本資料における「国産原油」の販売量及び売上高は買入原油を除いており、「ビチューメン」の価格及び売上高はロイヤリティー控除後の数値です。
また、「海外原油」の販売量及び売上高は、海外連結子会社であるJapex (U.S.) Corp.、JAPEX Montney Ltd.、株式会社ジャペックスグラフの数値を記載しています。

15/3月期 決算概要【前期比】

単位：百万円	14/3月期 通期実績 (a)	15/3月期 通期実績 (a)	比較増減
売上高	276,588	304,911	+28,322
売上総利益	66,127	70,262	+4,134
探鉱費	9,800	4,489	▲5,310
販売管費	31,692	33,625	+1,932
営業利益	24,634	32,146	+7,512
営業外損益	19,255	22,692	+3,437
経常利益	43,889	54,839	+10,949
特別損益	▲8,305	▲4,465	+3,839
法人税等	5,566	17,644	+12,077
少数株主利益	1,002	3,161	+2,159
当期純利益	29,015	29,567	+552

「増益要因を +」、「減益要因を ▲」で記載

売上総利益
国内原油天然ガス ▲3億円
海外連結子会社 +53億円

探鉱費
国内探鉱 +57億円
海外探鉱 ▲3億円

営業外損益
為替差益 +55億円

特別損益
減損損失の減少 +40億円
(14/3期 勇払79億円→15/3期 海外事業39億円)

法人税等
増益に伴う法人税増加 ▲46億円
特損への税効果不適用 ▲16億円
税制改正に伴う繰延税金負債 ▲18億円
その他繰延税金資産等見直し ▲32億円

3. 2016年3月期 通期業績予想

執行役員 山下 通郎

16/3月期 業績予想 【前提条件】

[油価と為替の前提]

	2015年 1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	2016年 1-3月	16/3期 前提値	15/3期 実績値
原油CIF価格 (USD/bbl)		55.00	60.00	60.00	65.00	60.00	96.48
為替・米ドル (円/USD)		115.00	115.00	115.00	115.00	115.00	106.23
ビチューメン (CAD/bbl)	27.72	32.45	35.16	35.18		32.52	55.74
AECO ガス価格 (CAD/MMBtu)	3.50	3.50	3.50	3.50		3.50	4.15
為替・カナダドル (円/CAD)	95.00	95.00	95.00	95.00		95.00	103.63

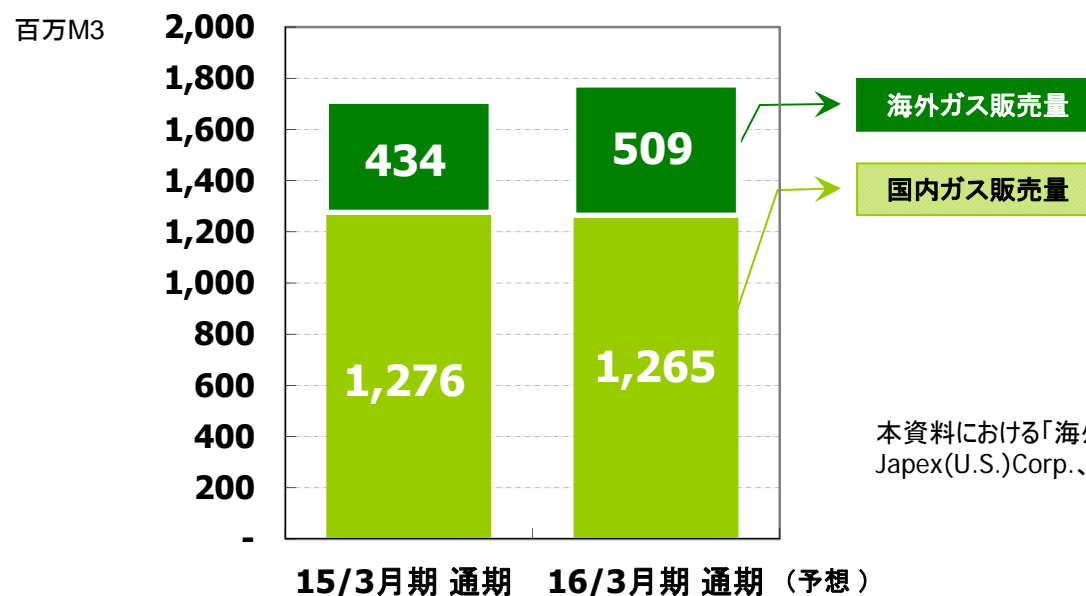
1. ビチューメン価格は、ロイヤルティ控除後
2. ビチューメン価格、AECOガス価格の「15/3期実績値」は 2014年1月～12月
3. 為替・カナダドルの「15/3期実績値」は、2014年12月30日のTTMLレート

16/3月期 天然ガス 販売予想

販売量: 百万M3 売上高: 百万円		15/3月期		16/3月期		比較増減	
		4-9月 2Q累計 (a)	4-3月 通期 (a)	4-9月 2Q累計 (e)	4-3月 通期 (e)	4-9月 2Q累計	4-3月 通期
天然ガス:	販売量	775	1,710	817	1,773	+42	+63
	売上高	37,458	83,974	31,965	67,856	▲5,494	▲16,119

販売量 内訳

国内ガス販売	販売量	578	1,276	573	1,265	▲6	▲11
(うち国産天然ガス)	販売量	(382)	(813)	(357)	(757)	(▲26)	(▲57)
海外ガス販売	販売量	196	434	245	509	+49	+74



本資料における「海外ガス」の販売量は、海外連結子会社である Japex(U.S.)Corp.、JAPEX Montney Ltd.の数値を記載しています。

16/3月期 原油 販売予想

		15/3月期		16/3月期		比較増減	
		4-9月 2Q累計 (a)	4-3月 通期 (a)	4-9月 2Q累計 (e)	4-3月 通期 (e)	4-9月 2Q累計	4-3月 通期
原油:	販売量(千KL)	1,107	2,396	2,069	3,423	+962	+1,026
	売上高(百万円)	73,500	133,346	79,233	135,841	+5,733	+2,494

【権益原油の内訳】

国産原油	販売量(千KL)	190	367	172	335	▲19	▲33
	売上高(百万円)	13,768	23,857	7,388	14,964	▲6,381	▲8,894
海外原油	販売量(千KL)	273	830	1,154	1,827	+881	+997
	売上高(百万円)	18,568	43,466	43,630	72,103	+25,062	+28,637
ビチューメン	販売量(千KL)	152	332	145	294	▲8	▲39
	売上高(百万円)	5,382	12,105	2,579	5,710	▲2,803	▲6,396

【油価と為替の前提】

原油CIF価格	(USD/bbl)	110.06	96.48	57.50	60.00	▲52.56	▲36.48
為替/米ドル	(Yen/USD)	102.13	106.23	115.00	115.00	+12.87	+8.77
ビチューメン価格	(CAD/bbl)	58.93	55.74	29.80	32.52	▲29.13	▲23.22
為替/カナダドル	(Yen/CAD)	95.04	103.63	95.00	95.00	▲0.04	▲8.63

本資料における「国産原油」の販売量及び売上高は買入原油を除いており、「ビチューメン」の価格及び売上高はロイヤリティー控除後の数値です。また、「海外原油」の販売量及び売上高は、海外連結子会社であるJapex (U.S.) Corp.、JAPEX Montney Ltd.、株式会社ジャペックスガラの数値を記載しています。

16/3月期 業績予想

単位：百万円	15/3月期 通期実績 (a)	16/3月期 通期予想 (e)	比較増減
売上高	304,911	271,118	▲33,794
売上総利益	70,262	49,475	▲20,787
探鉱費	4,489	7,243	+2,753
販売管費	33,625	33,112	▲513
営業利益	32,146	9,120	▲23,027
営業外損益	22,692	4,891	▲17,801
経常利益	54,839	14,012	▲40,828
特別損益	▲4,465	▲20	+4,445
法人税等	17,644	5,205	▲12,439
少数株主利益	3,161	▲2,919	▲6,081
当期純利益	29,567	11,705	▲17,863

損益変動要因 (MEMO)

「増益要因を +」、「減益要因を ▲」で記載

売上総利益

国内原油天然ガス
海外連結子会社▲118億円
▲98億円

探鉱費

国内探鉱
海外探鉱▲3億円
▲23億円

営業外損益

持分法投資利益
為替差益▲97億円
▲68億円

特別損益

減損損失の減少

+39億円

油価・為替の前提及び収益への影響

油価と為替 の前提	原油CIF価格 60 USD /bbl	為替 115.00 円/USD	ビチューメン CAD 32.52 /bbl (95.00 円/CAD)				
15/3月期 収益 影響額	USD 1 /bbl の 油価上昇による 利益増加額は…	1 円/USD の 円安による 利益増加額は…	CAD 1 /bbl の ビチューメン価格上昇による 利益増加額は…				
営業利益	490百万円	450百万円	(183万CAD) 170百万円				
当期純利益	340百万円	240百万円	(129万CAD) 120百万円				
[為替と油価の前提]	15/3月期			16/3月期			比較増減 通期
	1H 1Q-2Q (a)	2H 3Q-4Q (a)	通期 (a)	1H 1Q-2Q (e)	2H 3Q-4Q (e)	通期 (e)	
原油CIF価格 (USD/bbl)	110.06	82.03	96.48	57.50	62.50	60.00	▲36.48
為替/米ドル (Yen/USD)	102.13	112.10	106.23	115.00	115.00	115.00	+8.77
ビチューメン価格 (CAD/bbl)	58.93	53.04	55.74	29.80	35.17	32.52	▲23.22
為替/カナダドル (Yen/CAD)	95.04	103.63	103.63	95.00	95.00	95.00	▲8.63

注1: 「ビチューメン」の価格はロイヤリティー控除後の価格を表記しております。

注2: 為替変動の影響に関して、上記に示したものの以外に、外貨建金銭債権債務の為替レート換算差額が発生します。
また、実際の利益は原油価格や為替以外の様々な要因によっても影響されます。

4. 長期ビジョンと新中期事業計画

代表取締役社長
渡辺 修

長期ビジョン ~2025年の飛躍に向けて~

「E&Pを軸とする総合エネルギー企業への転換」

はじめに

I. 前中期事業計画の進捗状況

II. 事業環境認識

III. 長期ビジョン ~2025年の飛躍イメージ

IV. 主要プロジェクトのタイムライン、ファイナンス計画

V. 収益の見通しと株主還元

VI. CSR

VII. まとめ

VIII. 〈参考資料〉 個別事業の状況・略語集

はじめに

- 当社は、2011年5月、E&P(石油天然ガスの探鉱・開発・生産)事業、国内天然ガス事業、環境・新技術事業を事業拡大の3本柱とする中期事業計画(2011～2015年度、以下「前中計」。)を公表しました。
- その後の取組みにより、前中計で設定した目標(E&P事業における、①2011年度から2015年度における投資の海外シフト、②2015年度までに連結生産量を原油換算で7万バレル/日まで拡大、③2020年度までに連結埋蔵量を原油換算4.5億バレルまで拡大)を前倒しで達成できる状況に至りました。
- そこで、新たに今後10年程度を見据えた長期ビジョンと、その達成に向けた2015年度から2019年度までの5年間を対象とした中期事業計画を策定することにしました。
- 当社グループは、新たな長期ビジョン達成への取組みを通じて事業基盤及び競争力の一層の強化に努め、徹底した経営効率化を進めることにより、企業グループとしての持続的発展と株主価値の最大化に努めてまいります。

I. 前中計の進捗状況(1) 事業拡大の3本柱

前中計期間中の主な進捗

E&P: Exploration and Production
(石油・天然ガスの探鉱・開発・生産)



投資の海外シフト

生産量の増加

埋蔵量の拡充

- カナダシェールガス・LNG(上流) 参画(2013年度)
- カナダオイルサンド拡張開発のFID(2012年度)
- カンゲアンTSB ph.1生産開始(2012年度)
- カンゲアンTSB ph.2 FID(2014年度)
- ガラフ油田生産開始(2013年度)
- サハリン1 アルクトン・ダギ油ガス田生産開始(2014年度)
- 米イーグルフォード シェールオイル案件 参画(2012年度)



国内外一貫供給体制の構築、
インフラ整備、天然ガス需要開拓

- 相馬LNG基地FID(2013年度)
- 郡山北部P/L運開(2014年度)

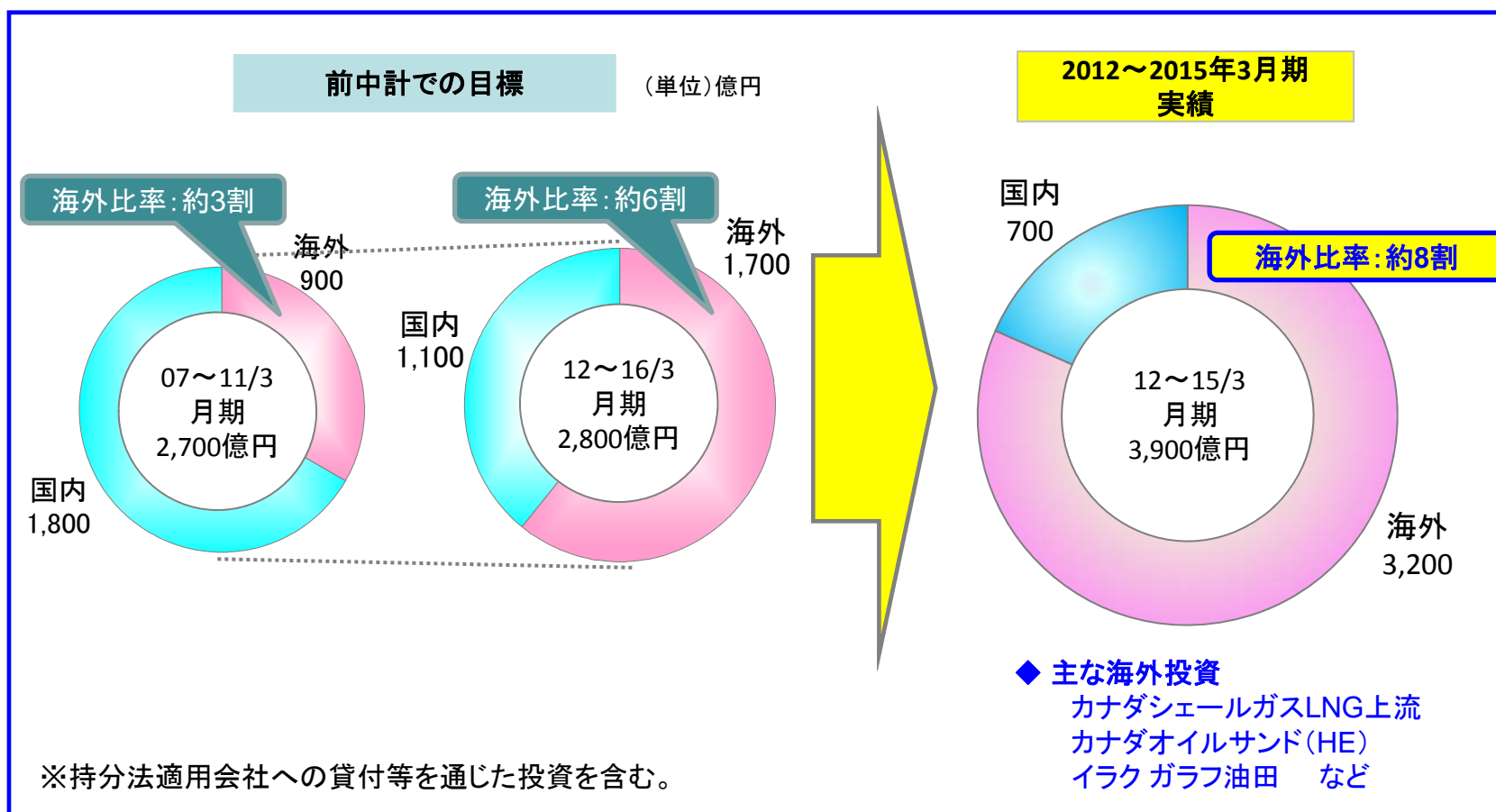


大型プロジェクト取組加速(CCS、MH)
再生可能エネルギー等新規分野開拓

- メタンハイドレートの技術開発(第1回海洋産出試験・2013年度)
- CCS苫小牧実証試験受託(2012年度～)
- メガソーラー運転開始(2件・2014年度)

I. 前中計の進捗状況(2) 目標1: 投資の海外シフト

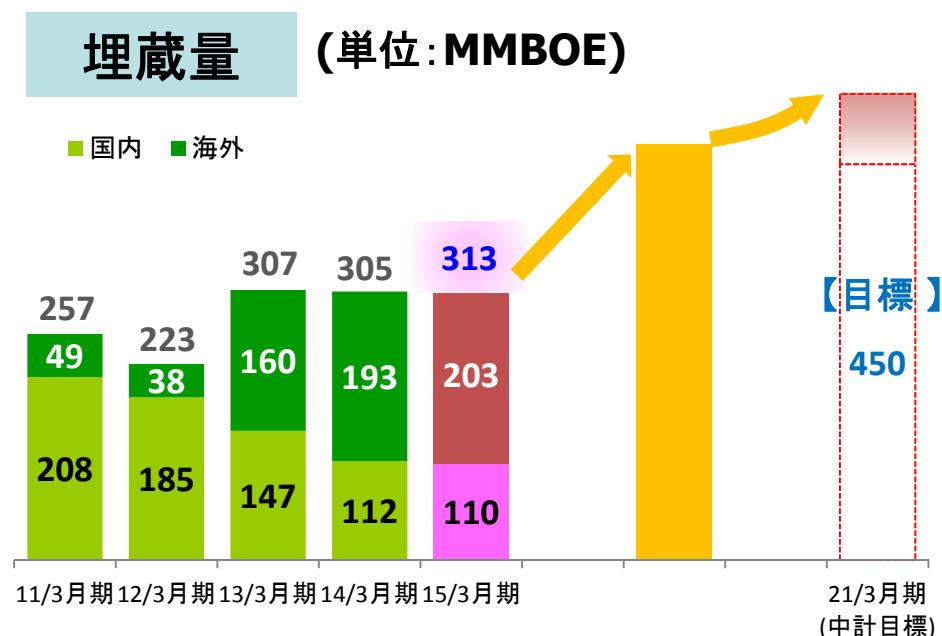
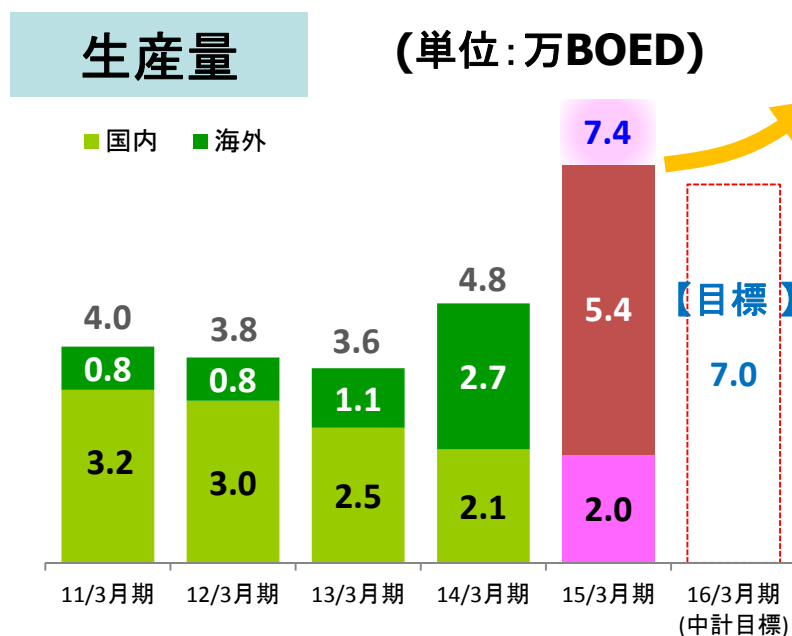
■ 「投資の海外シフト」へ 思い切ったコミットメント



I. 前中計の進捗状況(3) 目標2,3: 生産量・埋蔵量

■ 生産量・埋蔵量の2015年3月期実績はそれぞれ 7.4万BOED、313MMBOE

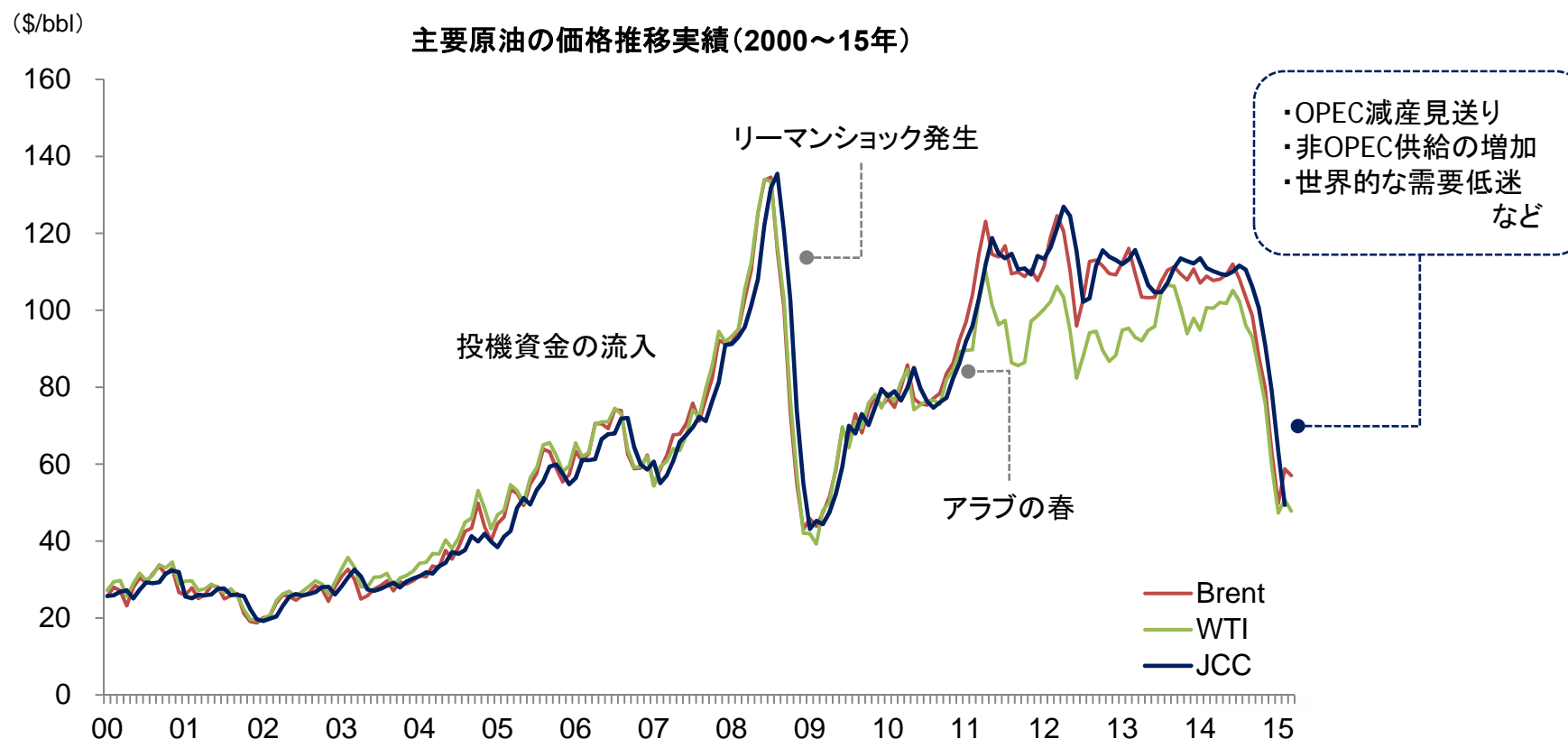
- 生産量は、カナダシェールガスやイラク・ガラフ油田通年生産等の寄与により約54%増加し、**一年前倒しで中期目標(16/3月期に7万BOED)を達成**
- 埋蔵量は、生産による減少をカナダシェールガス開発の進捗等で補填し、約3%増加
- カナダシェールガスやガラフ油田開発のさらなる進捗を想定すれば、埋蔵量目標(21/3月期に4.5億BOE)の前倒し達成にも道筋



※生産量、埋蔵量は、当社グループの経済的取分相当量

Ⅱ. 事業環境認識(1) 油価の推移(実績)

- 昨年中盤より、油価が急落。近年の油価変動幅は大きく、足元の推移も不透明。
- 但し、長期的には、新興国等の需要増加が想定され、石油・天然ガスは、今後も世界の一次エネルギーの中心的役割を占めるという見方が大勢。



出所：日本エネルギー経済研究所 統計資料などより当社作成

II. 事業環境認識(2) 外部環境

国際原油価格の変動リスク顕在化

- 2014年夏場以降の大幅な油価下落
- シェール革命等を背景に原油の供給超過傾向
- 欧州を中心とした世界的な需要低迷
- 石油ガス資産の価値低下によるM&A等業界再編の動き 等

地政学リスク

- イスラム国によるイラク及び周辺国における情勢不安定化
- イエメン政情不安定化/アラブ諸国の軍事介入
- ウクライナ問題に端を発したロシア制裁
- イラン核開発に関する経済制裁の行方 等

国内天然ガス事業の競争激化

- 電気・ガスシステム改革/小売全面自由化
- エネルギー種の垣根を越えたアライアンス形成・新規参入の動き
- 競合他社による国内LNG受入基地の稼働 等

地球環境対策問題

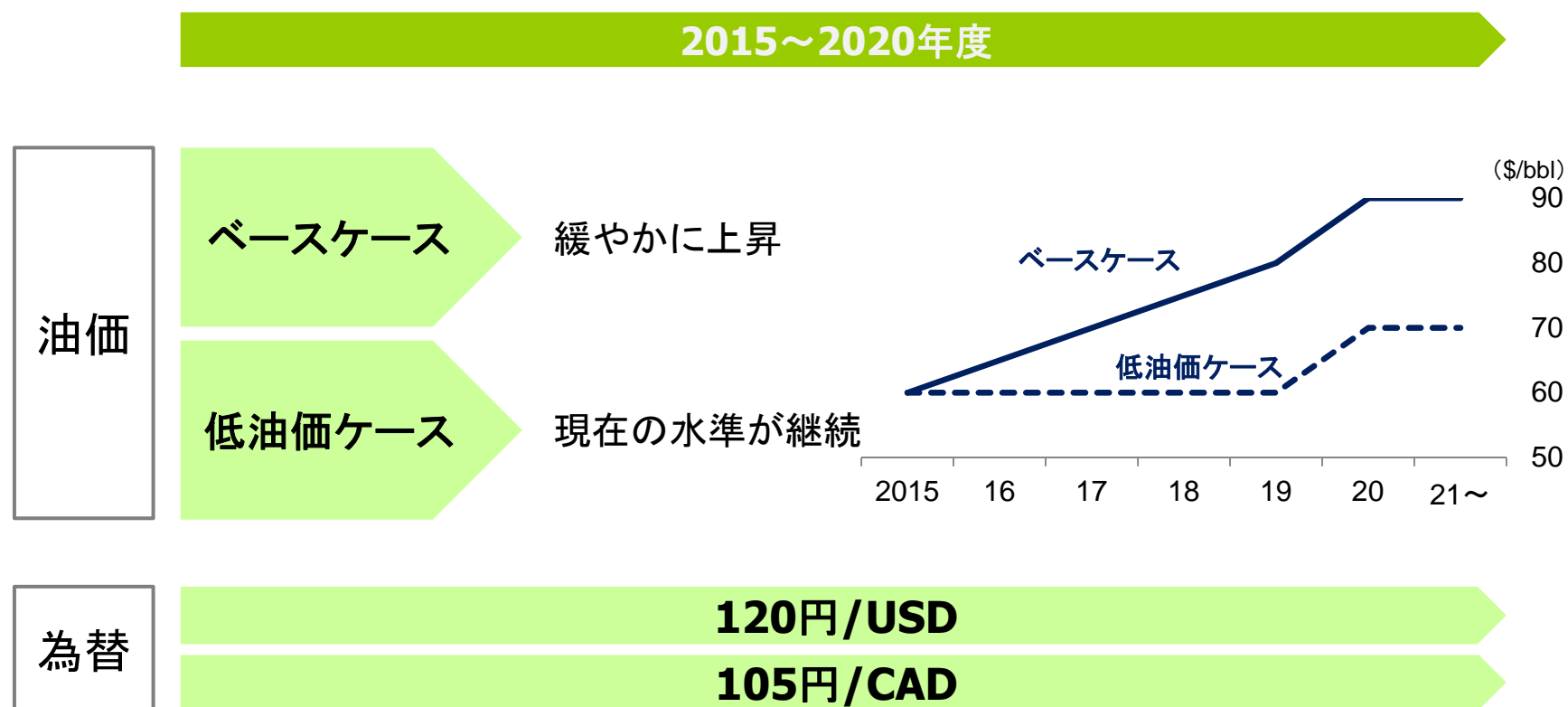
- 2011東日本大震災以降の我が国エネルギー情勢の激変/エネルギーベストミックスの行方
- 2015年末COP21における温室効果ガス削減目標の行方
- GHG削減の大きな流れは不変 等

一方、

- 中・長期的には、新興国中心に石油・天然ガス需要は大幅に増加。
- 化石燃料使用を極端に抑制する国際合意形成の可能性は低い。
- 石油・天然ガスは、国際的に一次エネルギーの主要な役割を長期的に担い続ける。

II. 事業環境認識 (3) 油価・為替前提

- 足元の動向や先高感などを踏まえて、今後の油価・為替を下図の通り想定。
- 油価変動に対応するべく、ベースケースに加えて、低油価ケースも想定。



USD: United States Dollar
CAD: Canadian Dollar

Ⅲ. 長期ビジョン(1) ~2025年の飛躍に向けて~

『石油・天然ガスE&Pを軸とする総合エネルギー企業への転換』

鉱山の減退はE&P事業の宿命だが、国内のエネルギー需要家は当社の最重要顧客



国内でのガス安定供給を使命に、LNG増加に対応する国内ガス供給インフラを拡充

+

原油価格の不安定性を改めて認識し、油価変動の影響を受けにくい事業基盤を拡充



これまでE&P事業にほぼ特化してきた当社事業分野を、E&Pを軸としつつ、
発電事業等を含む石油・天然ガス供給事業の周辺分野に積極的に拡大

Ⅲ. 長期ビジョン(2) E&P事業

【目標】

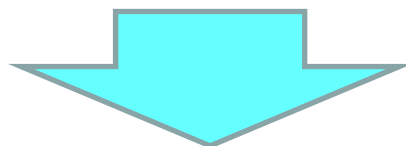
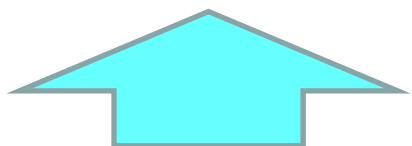
RRR > 1

【高収益埋蔵量の追加】

RRR : Reserve Replacement Ratio
 =(一定期間中の)【埋蔵量の増加分】÷【生産量】

中期的取組み

<p>【海外】</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ 進行中大型プロジェクトの着実な遂行 生産量・埋蔵量増加 投資回収・収益確保 <p>➢ 新規案件の発掘戦略の再整理</p>	<p>【国内】</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ 追加探鉱開発ポテンシャルの追求 ➢ EORの適用等による生産量の最大化 ➢ 効率的な操業体制の構築 ➢ メタンハイドレート研究開発への貢献 ➢ 国の基礎調査等を通じた海域ポテンシャルの追求
---	---

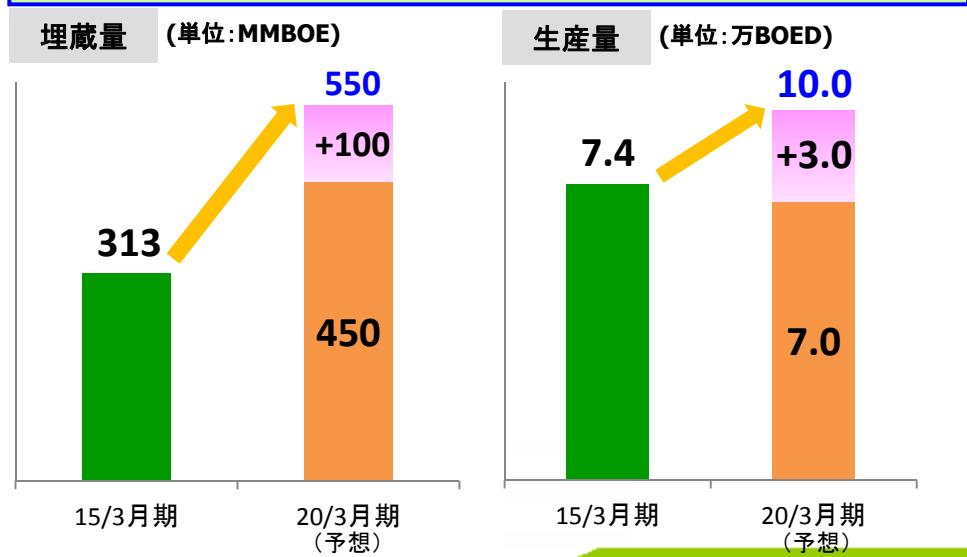


長期的取組み

- 既存プロジェクトの埋蔵量拡大
- 「資源量」の「埋蔵量」への格上げ
(カナダオイルサンド, カナダシェールガス, 国内)
- 新規案件投資
- 規模ではなく収益性を重視
- M&Aも視野に



2019年度末時点のイメージ(主に海外進行中プロジェクトの貢献)



「埋蔵量」: 既知の石油集積を開発することで、今後商業的に回収可能と予測される石油・天然ガスの量

「資源量」: ある地域内に存在する石油・天然ガス資源の量 (未開発及び将来発見されることが期待されているものを含む)



Ⅲ. 長期ビジョン(3) 国内天然ガス等供給事業① 相馬基地

■ カナダ産LNGを国内需要家へ ~ 天然ガス一貫供給体制の構築

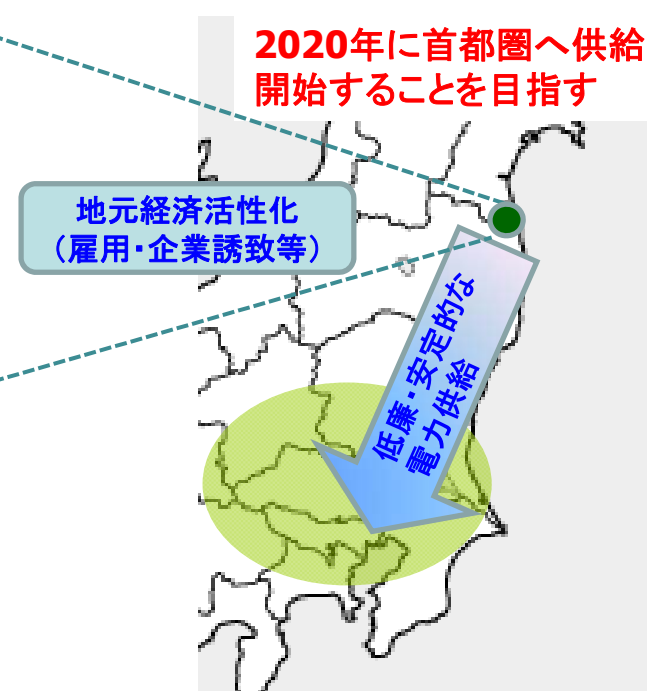


Ⅲ. 長期ビジョン(4) 国内天然ガス等供給事業② 相馬発電

- 相馬LNG 基地を活用し、気化ガスを燃料とした火力発電事業を検討中
- 高効率のガスタービン・コンバインドサイクル発電設備を基地隣接地に設置

戦略的メリット

- | | |
|--------------------------------|------------------|
| 1. 石油・天然ガス周辺分野への進出 | ⇒ 総合エネルギー企業 |
| 2. 油価変動の影響を受けにくい | ⇒ 強靱な事業ポートフォリオ |
| 3. 資金負担は限定的(Project Finance活用) | ⇒ 最適なファイナンス・ミックス |



■ 事業スケジュール(予定)

2014年11月	環境アセス第1ステップ開始
2015年4月	福島ガス発電株* 設立
2017年央	環境アセス完了、現地工事開始
2020年1月	一軸目60万kW 営業運転開始
4月	二軸目60万kW 営業運転開始

* 発電事業の事業化検討・準備を行うため、当社及び三井物産株により設立

Ⅲ. 長期ビジョン(5) 国内天然ガス等供給事業③

- 国産ガスは減退しても、供給インフラの活用・拡充により安定供給を維持
- 「供給」「調達」両面における多様化を図り、供給規模を拡大

【目標】

2025年
天然ガス取扱量**250万t**
のサプライヤーになる

長期的取組み

供給形態 (追加)	相馬発電(120万kW+α) 相馬基地外航船リローディング、 地下貯蔵利用 等
調達ソース (追加)	PNWL第1,2トレイン立上り* PNWL拡張、サハリン1LNG、 新規権益LNG、購入LNG

多様化の
拡充

現在(2015/3月期末)

天然ガス取扱量(実績) : 120万t (LNG換算) (国産ガス:LNG ≒ 50:50)	
供給形態	パイプライン、日本海LNG基地出荷サテライト、 他社基地出荷の自社内航船、等
調達ソース	国産ガス、マレーシアⅢ長契(~2022)、 スポットLNG購入

「供給」「調達」両面における多様化

中期的取組み 2020/3月期末

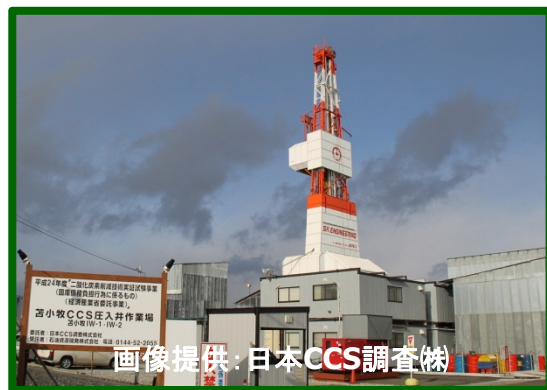
供給形態 (追加)	相馬LNG基地、相馬出荷サテライト・内航船 相馬発電(60万kW)
調達ソース (追加)	PNWL第1,2トレイン立上り*(又はつなぎLNG購入)
天然ガス取扱量(目標) : 150万t (LNG換算)	

* : PNWL立上がり時期は2019年度半ば~2020年度末を想定

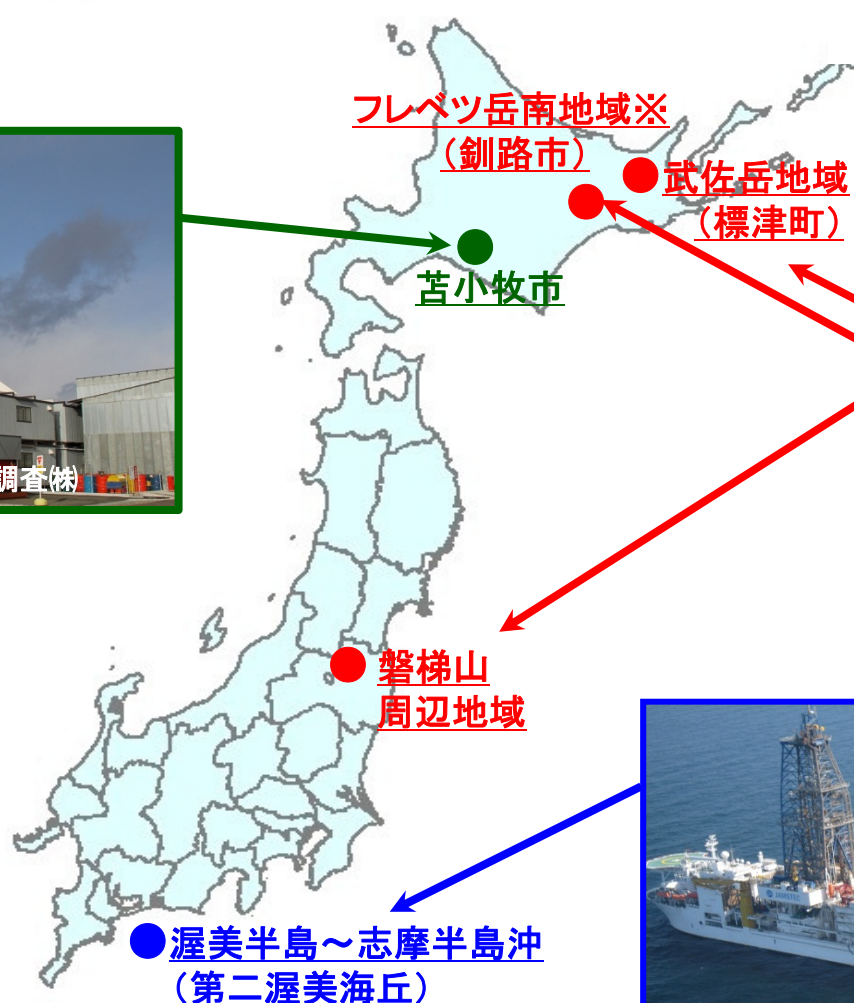
Ⅲ. 長期ビジョン(6) 環境・新技術事業 ①

- E&Pと親和性の高い技術の適用を追求
- 再生可能エネルギーへの取組みを推進

CCS



CCS圧入井の掘削作業



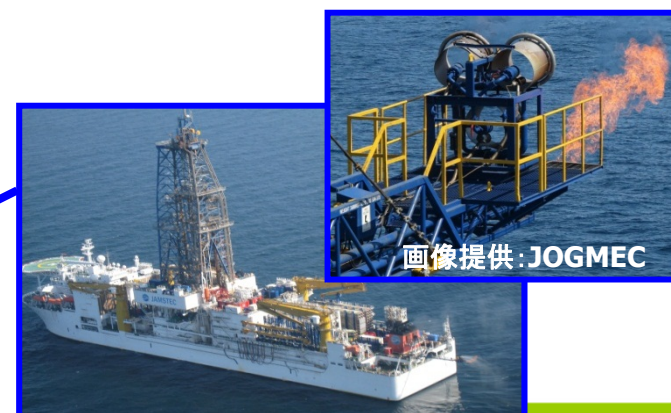
※地元合意形成を継続

地熱発電事業



武佐岳地域での掘削作業

メタンハイドレート

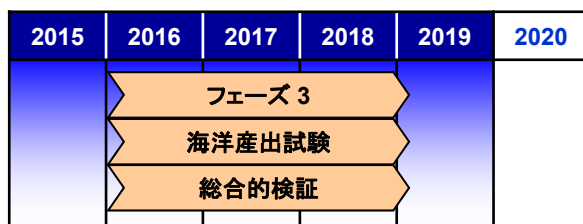


第1回メタンハイドレート海洋産出試験



Ⅲ. 長期ビジョン(7) 環境・新技術事業 ② 当面の取組み

メタンハイドレート



- 国は砂層型メタンハイドレートに関し中長期の海洋産出試験を計画。H30年代後半(2027年迄を目途)に当社が主導する商業化のためのプロジェクト開始を目指す。
- 2014年10月 日本メタンハイドレート調査(株)設立。
- 当社もフロントランナーとして、同社に参画し事業推進を牽引。

CCS 実証プロジェクト



- 2008年日本CCS調査(株)設立、官民で事業推進。
- 2016年以降、圧入及びモニタリング開始。
- 2020年以降の実用化を目標に、CCS実証試験の着実な遂行及びCCS技術の蓄積・確立に向け注力。

地熱発電事業



- 武佐岳地域において2016年に3本目の調査井掘削予定。
- 3本の調査井掘削の評価を踏まえ、事業化検討を進める。
- 北海道以外の地域においても候補地を検討中。

IV. 主要プロジェクトのタイムライン、ファイナンス計画

- 国の出資・債務保証制度、プロジェクトファイナンス等の活用を通じ、最適なファイナンス・ミックスを追求
- 2015～2019年度の要ファイナンス額（5年合計）は 2,000～2,200 億円
- うち1,000億円は当社資金を充当

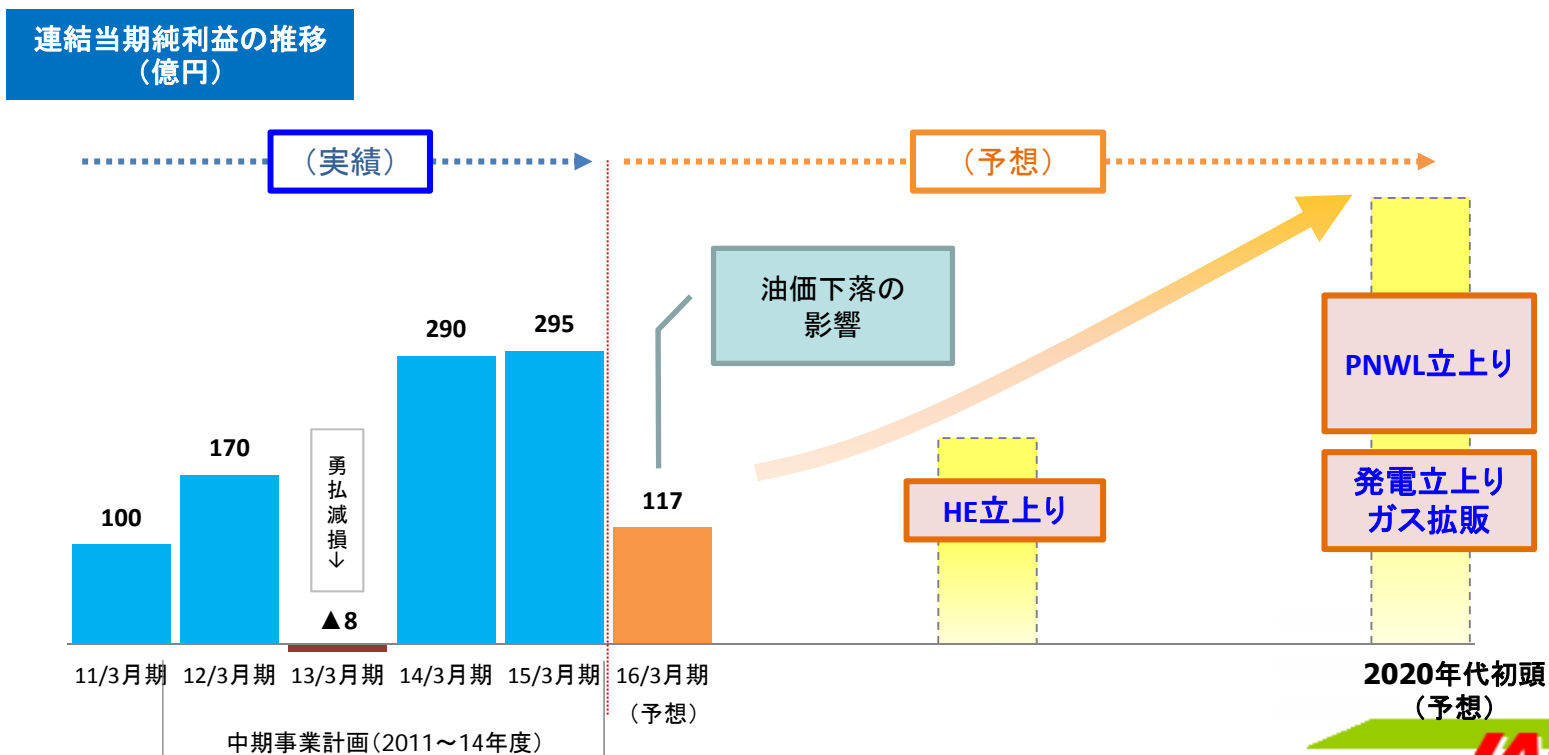
	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2015年度以降のファイナンス				
							当社資金	国等の出資	借入金	内部収入の充当	その他
オイルサンド HE開発	◆生産開始						✓		✓	✓	
イラク・ガラフ油田 能力拡張	承認待ち ◆目標生産量の達成									✓	
カンゲアン TSB phase 2	◆生産開始									✓	
カナダLNG 上流 ガス開発	生産量の段階的な増加								✓	✓	
カナダLNG 液化事業	Pre-FID ◆FID (2015年年央目標) ◆LNG 生産開始						✓	✓			✓
相馬 LNG基地	◆LNG受入開始						✓		✓		✓
相馬 発電事業	Pre-FID ◆FID (2016年目標) ◆1号機発電開始 ◆2号機発電開始										✓

(注1) 資金調達方法及び金額については、現時点における当社の見通しであり、変動する可能性があります。

(注2) 「要ファイナンス額」2,000-2,200億円は、表中の「当社資金」「国等の出資」「借入金」の合計です。

V. 収益の見通しと株主還元

- 連結損益は15/3月期まで回復基調も、油価下落により、16/3月期は大きく減少。
- 進行中の大型プロジェクトについて、進捗管理の徹底による将来収益の確保を図り、当面の低油価環境においても安定配当を維持。
- 中期的には、油価回復と、カナダオイルサンド(HE)、カナダLNG(PNWL)の立上り、相馬LNG基地を通じたガス拡販及び発電事業により大幅な改善を見込み、更なる株主還元を目指す。



VI. CSR ~ "SHINE"の推進

- すべてのステークホルダーからの期待・要請に応え、信頼されるグローバル企業として成長するため、CSR重点課題「SHINE」を実現するための取組みを推進。

S エネルギー安定供給	: S table & Sustainable Energy Supply ⇒ 新技術の開発・・・
H 企業文化としてのHSE	: H SE As Our Culture ⇒ 労働安全衛生、地球温暖化対応・・・
I 誠実性とガバナンス	: I ntegrity & Governance ⇒ ガバナンス、コンプライアンス・・・
N 社会との良好な関係構築	: Being a Good N eighbor ⇒ 地域社会との共存・発展・・・
E 選ばれる魅力ある職場	: The E mployer of Choice ⇒ <u>ダイバーシティ、人材育成</u> ・・・

多様な人材
の確保と
人材育成

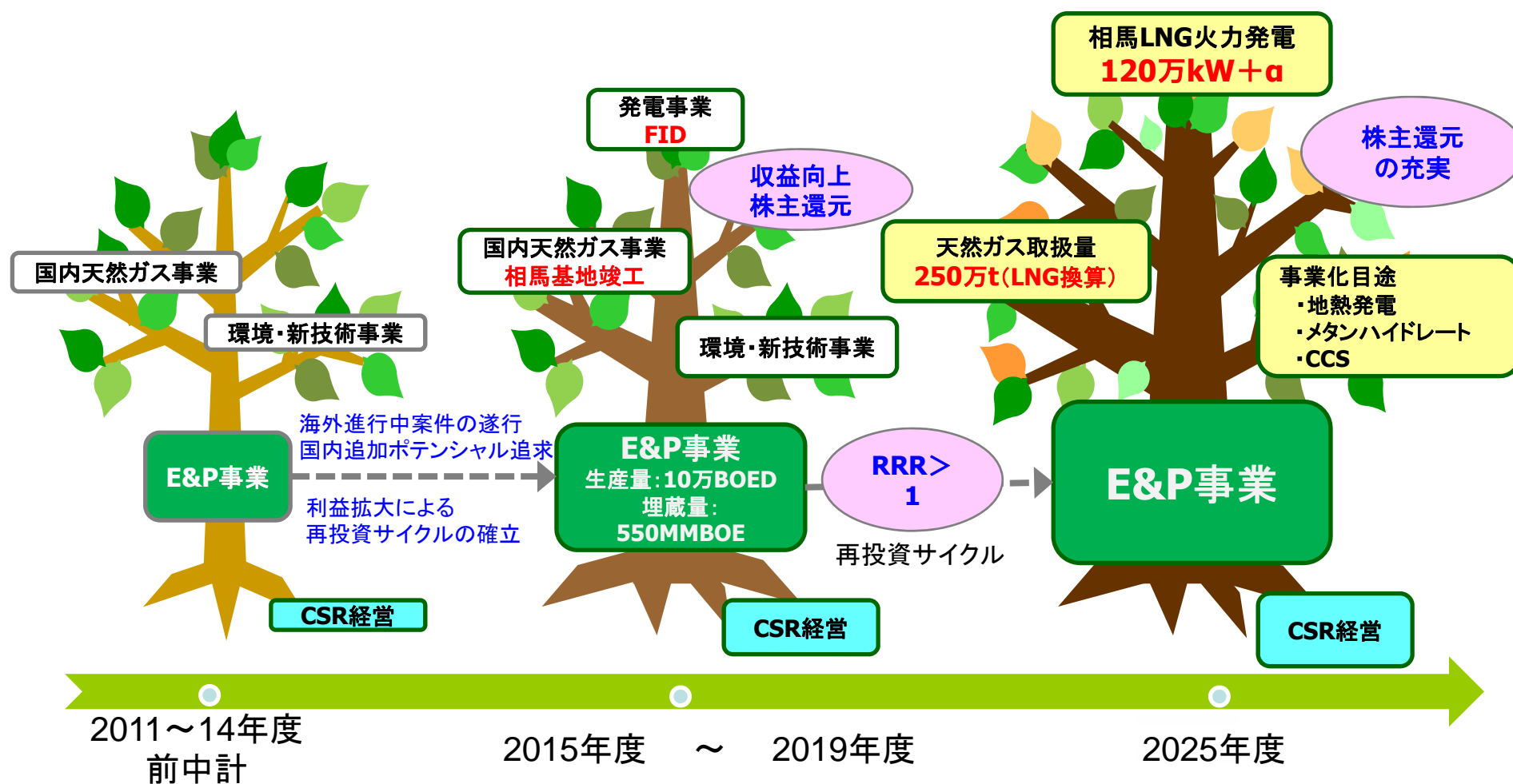
女性管理職比率
⇒ 2014年 3.4%
2020年までに **3倍に**

人材育成制度の整備
⇒ 個々人の能力の多能化又は
専門性の向上を図る

VII. まとめ 2025年の飛躍のイメージ

「石油・天然ガスE&P事業を軸とする総合エネルギー企業への転換」

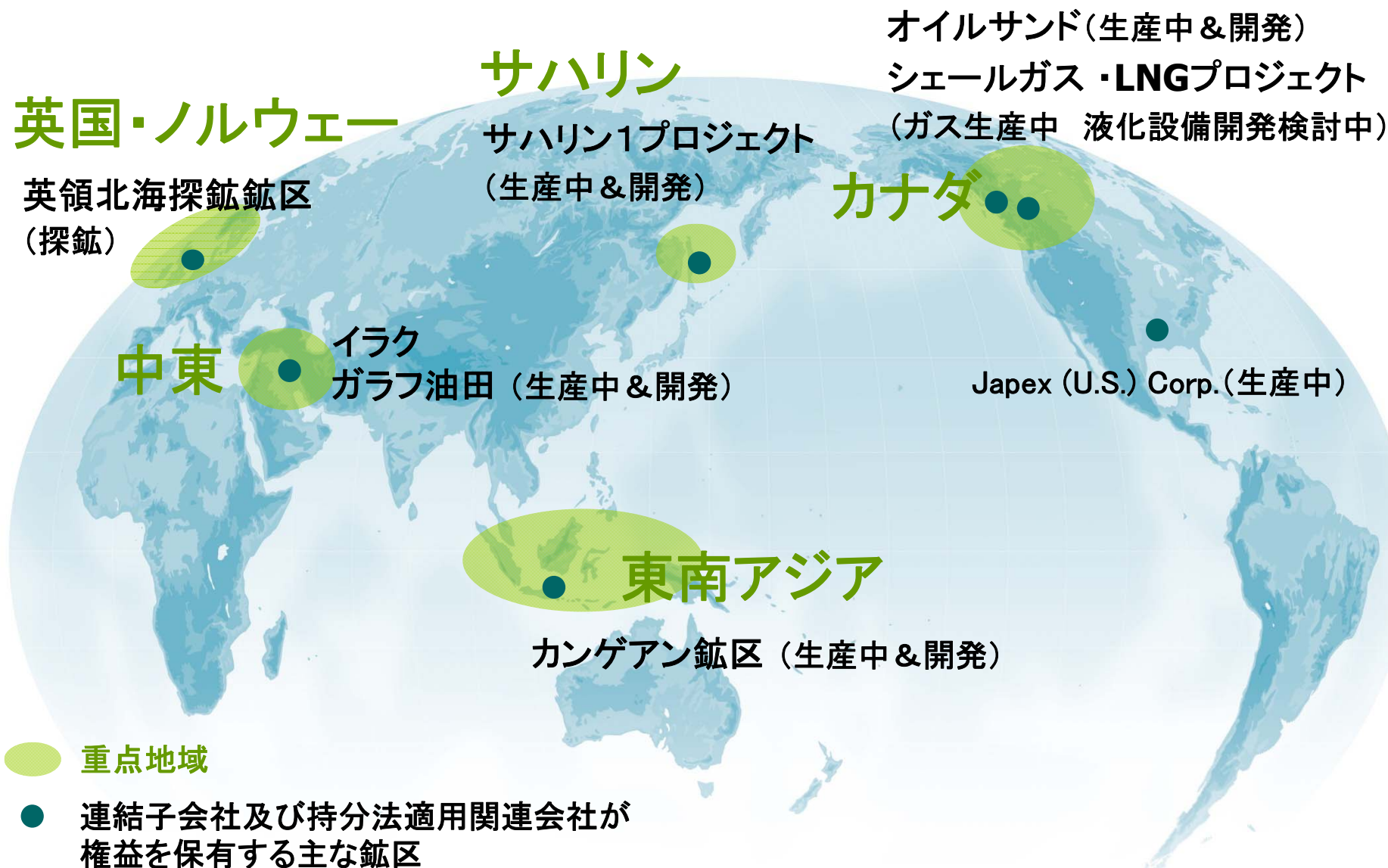
➤ 樹木に譬えれば、E&P事業を根・幹とし、均整のとれた樹形(事業構成)に成長。



〈参考資料〉

VIII. 個別事業の概況

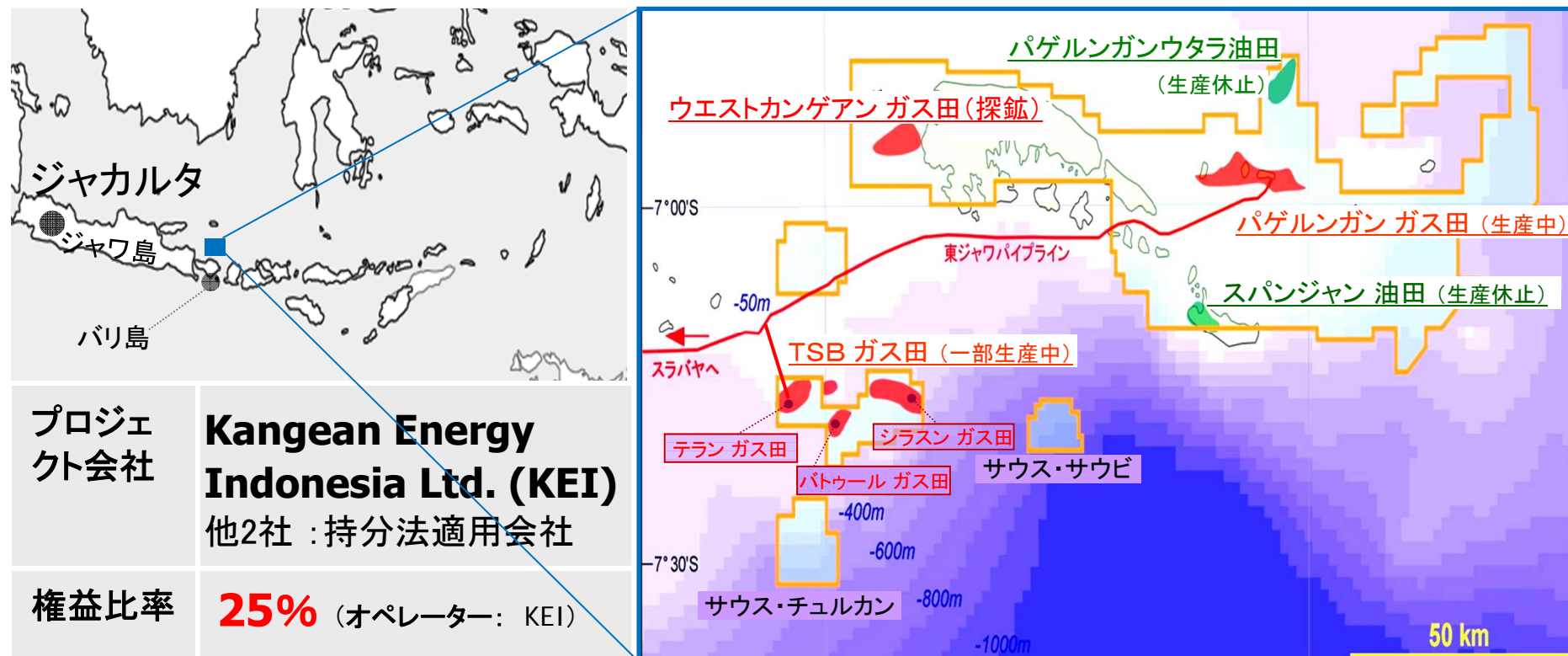
Ⅷ. 個別事業の状況(1)



Ⅷ. 個別事業の状況(2)

長期ビジョン(参考資料)

～インドネシア カンゲアン鉱区～



■ 現在の生産規模は、原油換算で日量約**5万バレル**

□ TSBガス田(Phase1 テラン)：2012年5月末生産開始、
最大生産日量3億立方フィート(原油換算で約5万バレル)
(Phase2 シラスン、バトゥール)：開発準備中

□ サウス・サウビ構造：2016年試掘に向けて準備中



VIII. 個別事業の状況(3)

長期ビジョン(参考資料)

～イラク ガラフ油田開発～

プロジェクト会社	(株)ジャペックスガラフ	
参加比率	30% (資金負担40%) オペレーター: PETRONAS	
油田名	ガラフ油田	生産中
2013年	累計生産量	2030年
		



■開発スケジュール

2013年	8/31 ガラフ油田 生産開始 平均生産量: 日量約 64,000 バレル
2014年～ 2016年	2014年平均生産量(12/31時点): 日量約 84,000 バレル 段階的に生産量引き上げ
2017年以降	日量 23万バレル 到達予定

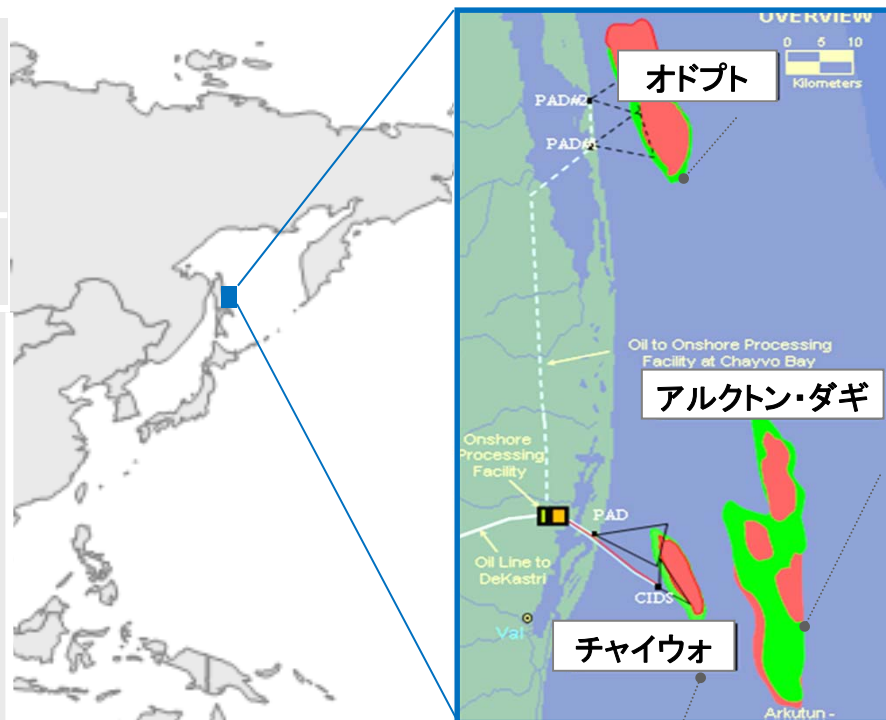
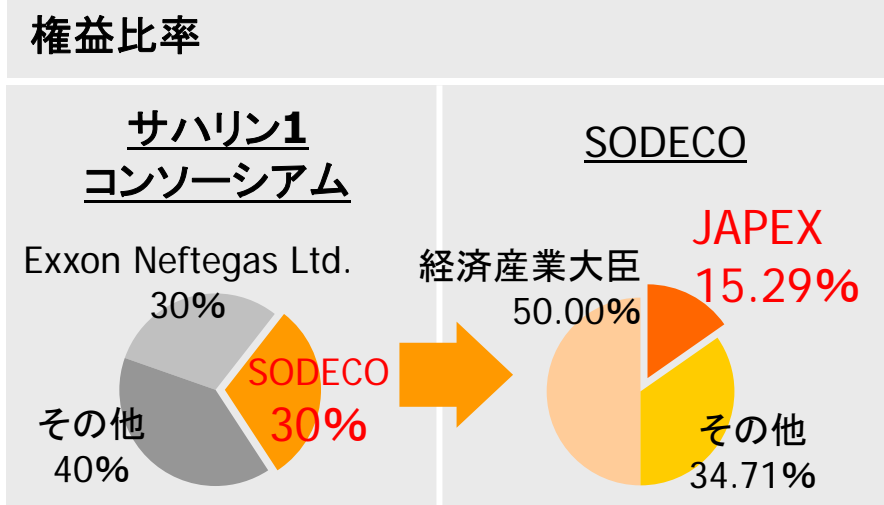


VIII. 個別事業の状況(4)

長期ビジョン(参考資料)

～サハリン1プロジェクト～

プロジェクト会社	サハリン石油ガス開発(株) (SODECO) 持分法適用会社
----------	--



鉱区	<p>チャイウオ、 オドプト、 アルクトン・ ダギ</p>	<p>3油田で生産中</p> <p>※ アルクトン・ダギは2015年1月より生産開始 ※ チャイウオは2015年に大偏距掘削で 13,500mの世界記録を達成</p> <p>合計原油生産量: 日量約18万バレル</p> <p>※ 生産量は、当社見積もりによる、 プロジェクト全体の2015年平均日量</p>
----	---	---

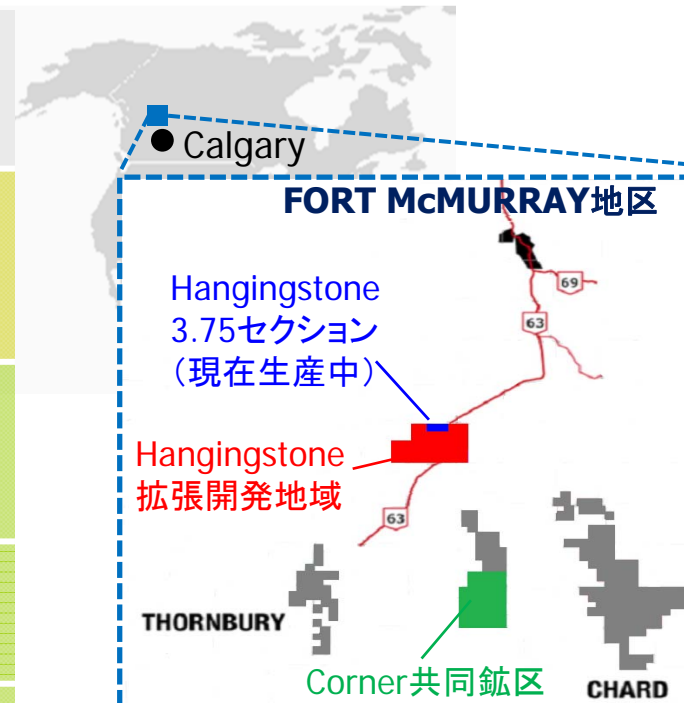


VIII. 個別事業の状況(5)

長期ビジョン(参考資料)

～カナダオイルサンド～

プロジェクト会社	カナダオイルサンド(株) (CANOS) オペレーター: Japan Canada Oil Sands Ltd. (JACOS)	
鉱区	ハンギングストーン3.75 セクション (権益比率) 100% 日量約5,000～約6,000バレル	生産中 (2015年3月 末累計生産量: 3,323万バレル)
	ハンギングストーン拡張開発地域 (権益比率) 75% 日量20,000バレル規模から段階的拡張を予定	開発 作業中
	コーナー共同鉱区 (権益比率) 12%	評価 作業中
	その他ビチューメン鉱区 (コーナー、チャード、ソンベリー等)	検討中



■ハンギングストーン拡張開発スケジュール

2013年	2月: 開発工事着手(初期土木工事) 9月: 主要施設のEPC契約締結
2014年	8月: 初期土木工事完了、現場での施設建設工事開始
2015年	2月: 水平井掘削作業完了
2016年	生産開始予定



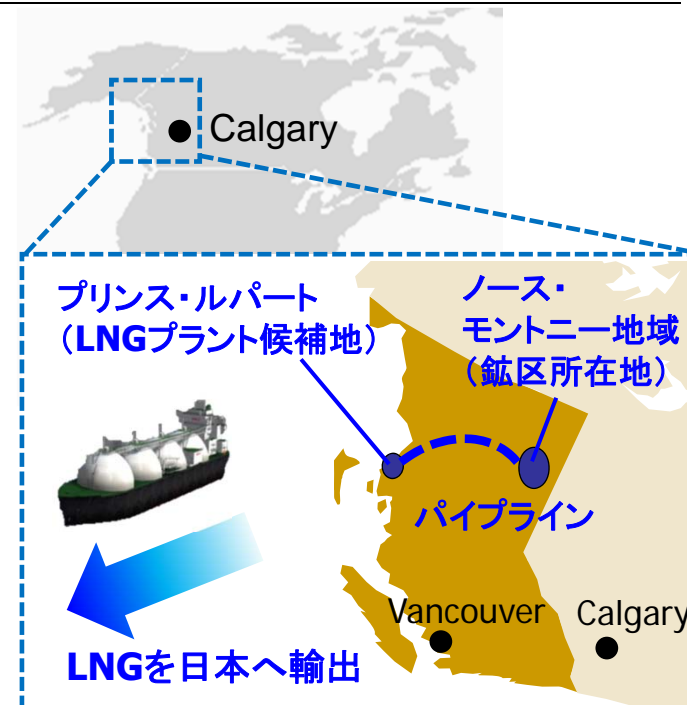
ハンギングストーン拡張開発中央処理施設建設現場

Ⅷ. 個別事業の状況(6)

長期ビジョン(参考資料)

～カナダシェールガス・LNGプロジェクト～

	シェールガス開発・ 生産プロジェクト(上流)	LNGプロジェクト (中流)
鉱区/ プラント 候補地	カナダ ブリティッシュ・コ ロンビア州ノース・モント ニー地域	同州プリンス・ルパート レレー島
当社子会社 参加比率	10% 権益	10% 持分
オペレーター	PETRONAS (子会社含む)	PETRONAS (子会社含む)
現況	シェールガス生産・販売中	LNG設備建設業者選定 作業実施中



■ プロジェクトスケジュール

2013年4月26日	契約締結
2013年12月	輸出許可取得
2015年中(政府承認後)	LNGプラント最終投資決定(FID) 予定
2015年～	LNGプラント建設
2019年以降	LNG生産開始(1200万トン/年)

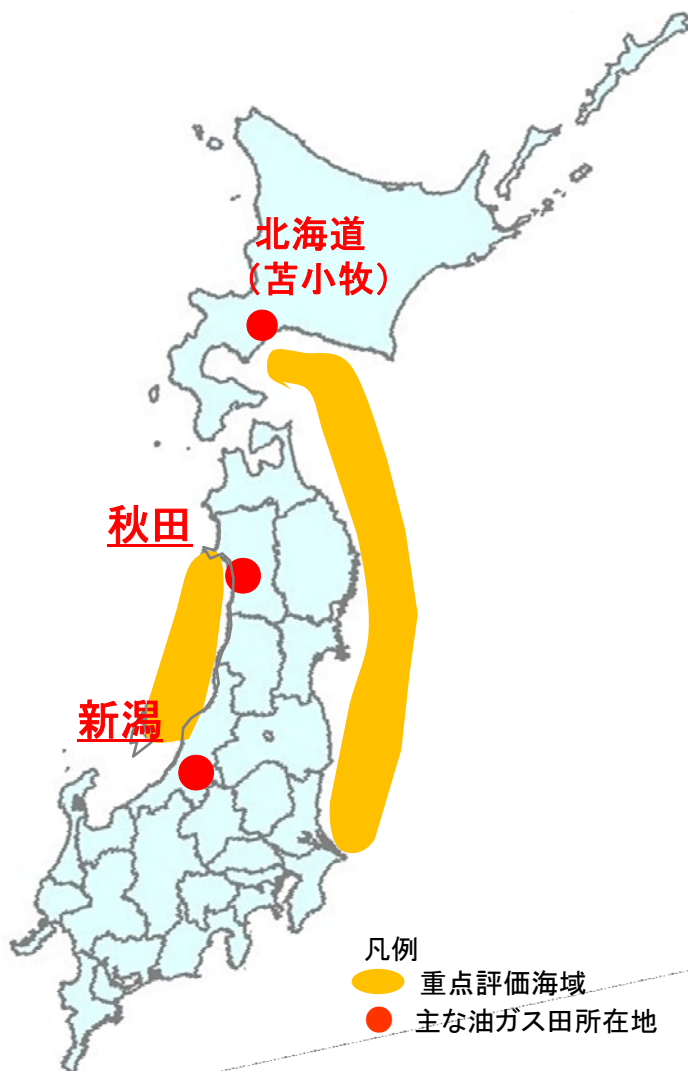


VIII. 個別事業の状況(7)

長期ビジョン(参考資料)

～国内E&P事業～

国内事業の収益力強化に向けた取組み



- 既存油ガス田の資産価値最大化
- 生産量の維持及び可採埋蔵量の補てん
 - ⇒ IOR/EORの適用検討、実施
 - ⇒ 沼ノ端SK-4号井における人工採収
 - ⇒ 岩船沖油ガス田におけるWAGの実施 等
- 陸域の探鉱
 - ⇒ 南柏崎Loc.A1の試掘
 - ⇒ 新潟県うおぬま地域における物理探鉱調査
- 国内シェール(タイトオイル)開発
 - ⇒ 秋田福米沢油田におけるフラクチャリングの有効性の検証(手法の最適化)
 - ⇒ 秋田鮎川油ガス田におけるタイトオイル開発
- 新たな国内探鉱機会の発掘(国の基礎調査等を活用)
 - ⇒ 海域における広域探鉱ポテンシャル評価の実施
 - ⇒ 海陸境界域(浅海)におけるポテンシャルの追求

VIII. 個別事業の状況(8)

長期ビジョン(参考資料)

～相馬LNG基地・発電事業～

■相馬LNG基地概要

建設地	福島県相馬郡新地町 (相馬港4号埠頭地区)
容量	地上式PC型23万kl 貯槽×1基
現況	LNG基地・接続パイプライン 建設工事中
操業開始時期	2018年3月(予定)

■LNG基地建設スケジュール

2013年11月	最終投資決定(FID)
2014年11月	基地建設開始
2017年末	基地完成(予定)
2017年末	LNG第1船受入(予定)
2018年3月	操業開始(予定)

■相馬港天然ガス発電所(仮称)計画概要

原動力の種類	ガスタービン及び汽力 (コンバインドサイクル方式)
出力	約120万kW (約60万kW×2基)
現況	福島ガス発電(株)設立 環境アセスメント手続き中
運転開始時期	1号機 2020年1月(予定) 2号機 2020年4月(予定)



相馬LNG基地/天然ガス発電所完成イメージ

Ⅷ. 個別事業の状況(9)

長期ビジョン(参考資料)

～環境・新技術事業①～

CCS

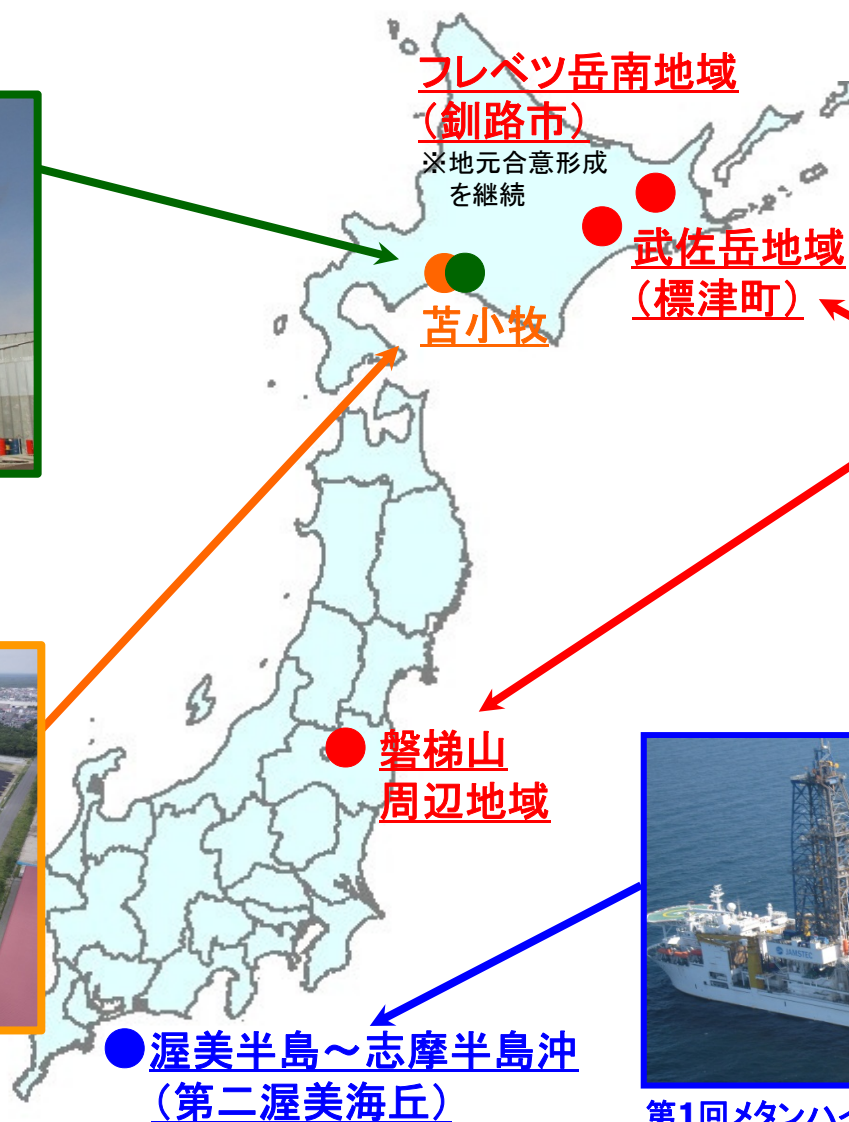


CCS圧入井の掘削作業

太陽光発電事業



北海道鉱業所メガソーラー発電所

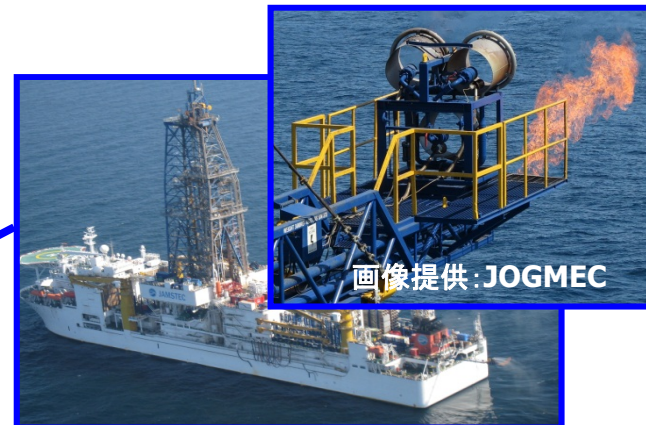


地熱発電事業



武佐岳地域での掘削作業

メタンハイドレート



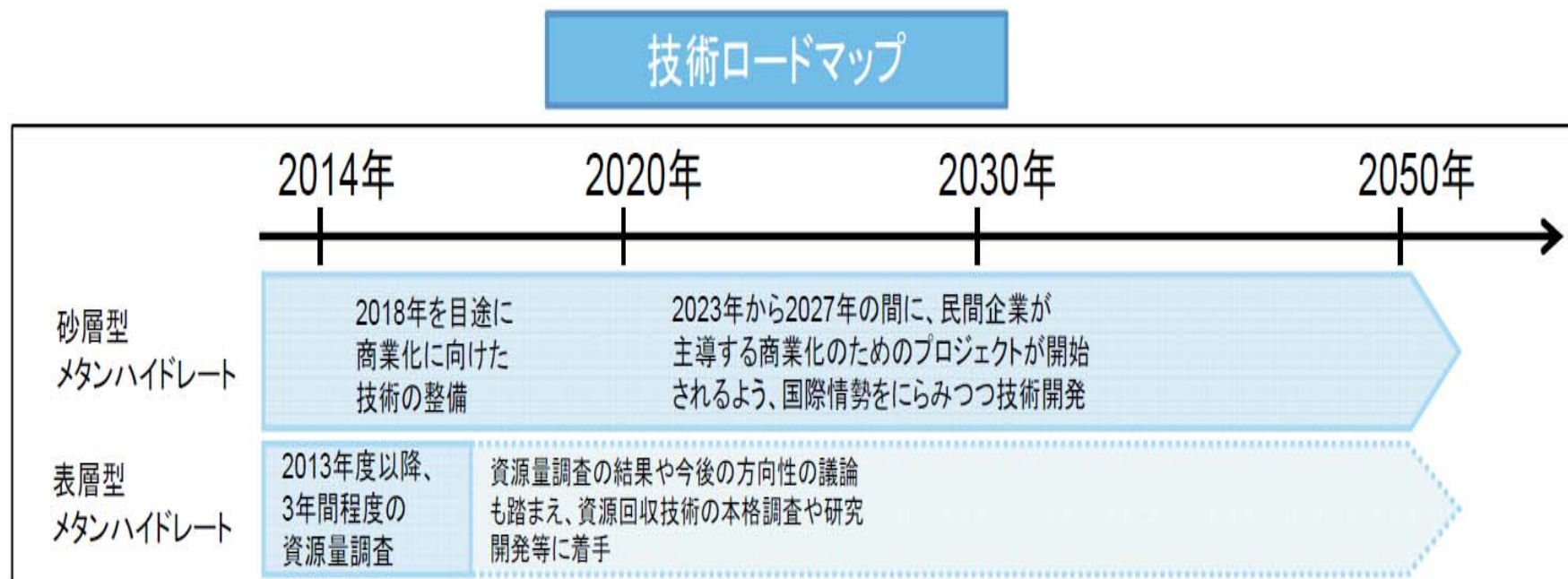
第1回メタンハイドレート海洋産出試験

VIII. 個別事業の状況(9)

長期ビジョン(参考資料)

～環境・新技術事業② メタンハイドレート～

- 国は、砂層型メタンハイドレートの中長期海洋産出試験を、**2016～2018年頃**に計画
- 当社は、日本メタンハイドレート調査(株)を通じた作業受託を目指し、技術開発に貢献
- **H30年代後半(2027年迄を目途)**に、当社が主導する商業化プロジェクトの開始を目指す



出所:「長期エネルギー需給見通し小委員会 資料」(平成27年1月 経済産業省)

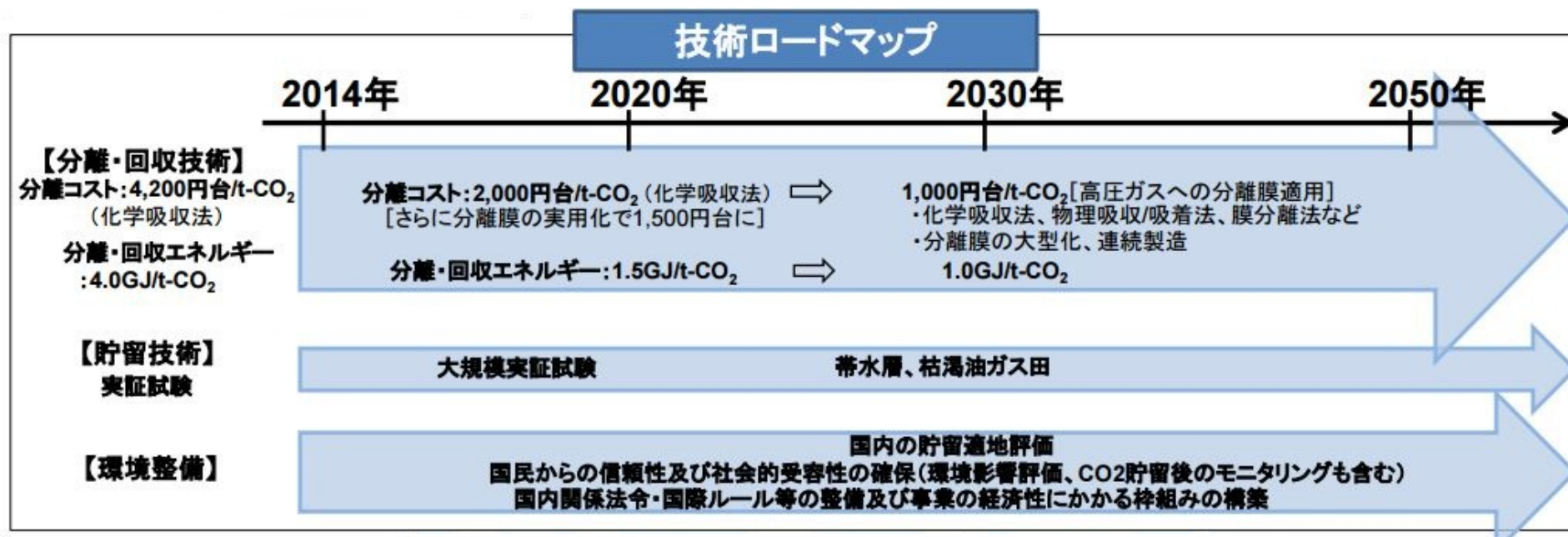
VIII. 個別事業の状況(9)

長期ビジョン(参考資料)

～環境・新技術事業③ CCS～

- 2008年、日本CCS調査株(JCCS)を設立、官民で事業推進中。
- 国の苫小牧実証試験をJCCSが受託し、2016年以降圧入及びモニタリング開始。
- 当社は、2020年以降の実用化を目標に、CCS実証試験の着実な遂行及びCCS技術の蓄積・確立に注力。

二酸化炭素回収・貯留(CCS)ロードマップ (出所: 経済産業省「エネルギー関係技術開発ロードマップ」)



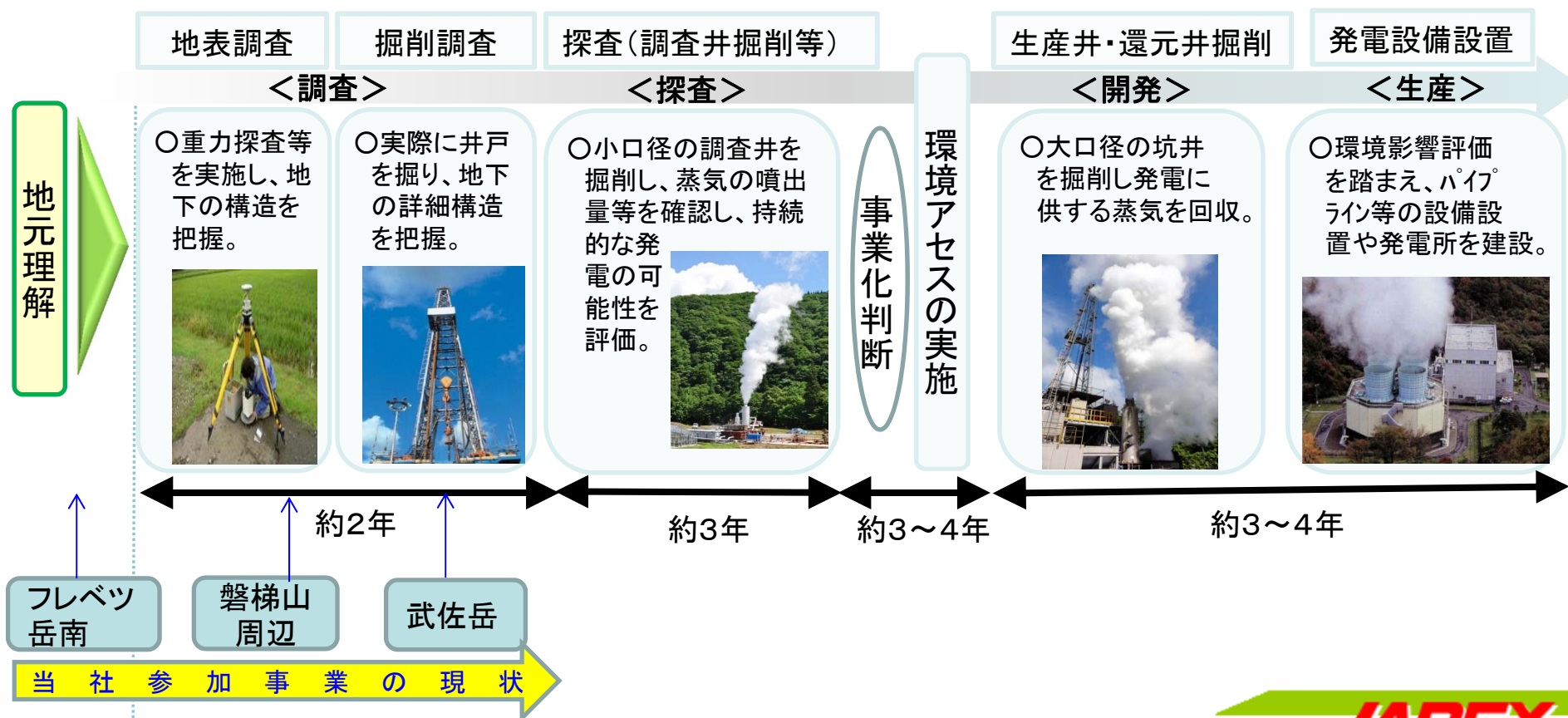
Ⅷ. 個別事業の状況(9)

長期ビジョン(参考資料)

～環境・新技術事業④ 地熱～

- 武佐岳地域及び磐梯山周辺地域については、2020年代中頃の操業開始を目指す。
- フレベツ岳南地域を含むその他の有望地域についても、地元の理解を得ながら積極的に取り組む。

地熱開発ロードマップ モデルケース(出所: 第4回長期エネルギー需給見通し小委員会「資料2」P9をもとに当社編集)



● BOE(D)	Barrels of Oil Equivalent (per Day)	石油換算バーレル(日量)
● CCS	Carbon dioxide Capture and Storage	二酸化炭素の回収、貯留
● COP	Conference Of the Parties	気候変動枠組条約締約国会議
● CSR	Corporate Social Responsibility	企業の社会的責任
● E&P	Exploration and Production	石油天然ガスの探鉱・開発・生産
● FID	Final Investment Decision	最終投資意思決定
● GHG	Greenhouse Gas	温室効果ガス
● HE	Hangingstone Expansion	(カナダオイルサンド)ハンギングストーン拡張開発プロジェクト
● HSE	Health, Safety and Environment	労働安全衛生・環境
● IOR (EOR)	Improved (Enhanced) Oil Recovery	増進回収法
● JCC	Japan Crude Cocktail	日本原油輸入価格平均
● JOGMEC	Japan Oil, Gas and Minerals National Corporation	(独)石油天然ガス・金属鉱物資源機構
● LNG	Liquefied Natural Gas	液化天然ガス
● MH	Methane Hydrate	メタンハイドレート
● P/L	Pipeline	パイプライン
● PNWL	Pacific North West LNG	カナダシェールガス・LNGプロジェクト
● ROE	Return on Equity	自己資本利益率
● RRR	Reserve Replacement Ratio	埋蔵量置換率
● SODECO	Sakhalin Oil & Gas Development Co., Ltd.	サハリン石油ガス開発株式会社
● TSB	Terang, Sirasun, Batur	テランガス田、シラスンガス田、バトゥールガス田
● WTI	West Texas Intermediate	ウェスト・テキサス・インターミディエイト原油